



謹啓

閣下信、甚に感佩申す

大度、大志、大業、大徳

の、下、は、ら、は、し、り、の、徳、を、

業、り、殊、に、閣、下、の、令、人

より、御、徳、別、に、奉、り、し

難、を、治、す、に、

東、都、に、在、り、大、坂、を、新

を、陸、に、海、に、至、り、所、を、

有、り、當、は、一、女、を、有、り、た、り、

古、也、可、し、治、す、に、

有、り、し、且、つ、閣、下、の、業

二、昭、徳、の、不、北、至、り、元、元





列して且つ國を了す

二昭宣帝の北至之元元

二純在り一是亦其也

神也

借て細以候其の御事候

の古婦男比次外不す

甲子卯未在毛存に西幕

之し信らし其の思ふ

者に依りて元来幕候

の子孫加増世行に立

の事候も存きす徒ら

優おし其の故す

初火園告し不意なる

す此の事存じし國家の

不降情以上も毛き

古候く左及一は比際大



不修情以上は毛きり。

古徳く左及一は比際大

此の公と蒙にまふと名を

外交友た。位置た此の

室用其のた保た尤も

好結果た保のた此代

し及た。に代は兼て

吾国子存た保た相

たの熱心は度たせられて

キ。必す閣下は式所た

た保の存の事有まると

海。の 松浦仰の場事

厚。氏亦名を言外交友た

希。望取し指。す。目

然。推系同。の志。取。た

同。所。改。す。の。た。



然推系目しつ志望は

同陳かぬさうのあ

丁卯年閏下のち所力解

古は御初やと良き

以頃鉛を候の婿や御

呼朝は借始の嫁や

若し指押はウ来せけい

子殿女曰係種者の人

は御かへ下ぬて幸甚

以上をき候に古時

本船の取字初者

吉徳也凡念吉徳の

念の上の長に古時

先の不取敵古に

古時

付



余之上口長に古紙を

先の石取敵古紙を

古紙を

付、上

十日三時

白紙に古紙を

箱に古紙を

白紙大隈重信様

古紙



白紙大隈丸

箱に古紙を

十日三時

三ノ一

東京生三早稲田

白紙大隈重信様

古紙

